

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-510	13-082	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
No significant effects of smoking or alcohol consumption on risk of Barrett's esophagus. バレット食道のリスクへの喫煙もしくはアルコール摂取の著しい影響はない		
執筆者		
Thrift AP, Kramer JR, Richardson PA, El-Serag HB.		
掲載誌		
Dig Dis Sci. 2014 Jan;59(1):108-16. doi: 10.1007/s10620-013-2892-6.		
キーワード		PMID
アルコール、バレット食道、疫学、リスクファクター、喫煙		24114046
要 旨		
目的： 喫煙だけでなく、多量飲酒は食道腺癌のリスク上昇とバレット食道から食道腺癌への進展に関連しているが、喫煙もアルコールもバレット食道の進展に関連しているかは未だ明らかではない。		
方法： 対象者は 2008 年から 2012 年に米国テキサス州ヒューストンの 7 つの一次医療施設で選択的食道胃十二指腸内視鏡検査(EDG)と大腸内視鏡検査受診者から選出し症例対照研究を実施した。バレット食道と診断された 258 人を、内視鏡的にも病理組織学的にもバレット食道の既往がない大腸内視鏡対照群 453 人もしくは EDG 対照群 1145 人から成る 2 つの対照群と別々に比較した。統計解析は多変量ロジスティック回帰モデルを用い、オッズ比と 95% 信頼区間を算出した。		
結果： 喫煙経験者は、バレット食道症例群で 77%、大腸内視鏡対照群で 75%、EDG 対照群で 72% であり、このうちおよそ 45%は現在喫煙者だった。全対象者の 91%は過去もしくは現在飲酒者で主にビールを飲んでいて、喫煙状況、喫煙本数、喫煙開始年齢、喫煙期間、1 年の喫煙本数、喫煙年数など喫煙のいかなる曝露ともバレット食道のリスクは関連を認めなかった。アルコール摂取もバレット食道のリスク上昇と関連しなかった。しかしながら、中等度(週 14~28 杯未満)の飲酒は、リスク低下に関連していた。		
結論： 喫煙とアルコールは、バレット食道のリスク要因として強い関連を示さず、また飲酒との関連については一貫性がなかった。喫煙は、バレット食道から癌への進展を促進することにより食道腺癌のリスクを上昇させる可能性がある。		